

③新たな作目や品種の特徴を活かした需要拡大

山ぶどうを原料とした醸造酢及び「飲む酢山ぶどう」などの加工品の開発及び販路開拓

巨峰の産地である田主丸において巨峰の出荷量が低迷しているため、「山ぶどう」の本格的な栽培に取り組み、果実酢等の加工品を開発する。

➤ 連携体

農林漁業者

峰石園(農業)

巨峰栽培50年の栽培技術と耕作地を活用し、山ぶどうの品質向上と安定供給体制の確立に取り組み、(有)九州酢造に供給する。

中小企業者

(有)九州酢造(食料品製造業)

醸造酢の製造技術と約1万人の直販健康酢顧客網を活用し、果実酢の開発、製造及び販路開拓に取り組む。

連携参加者

福岡県中小企業団体中央会

きめ細かなフォロー体制と施策対応の経験・実績を活用し、人材その他の施策による事業支援や販路開拓支援を行う。

サポート機関等

地域活性化支援事務局

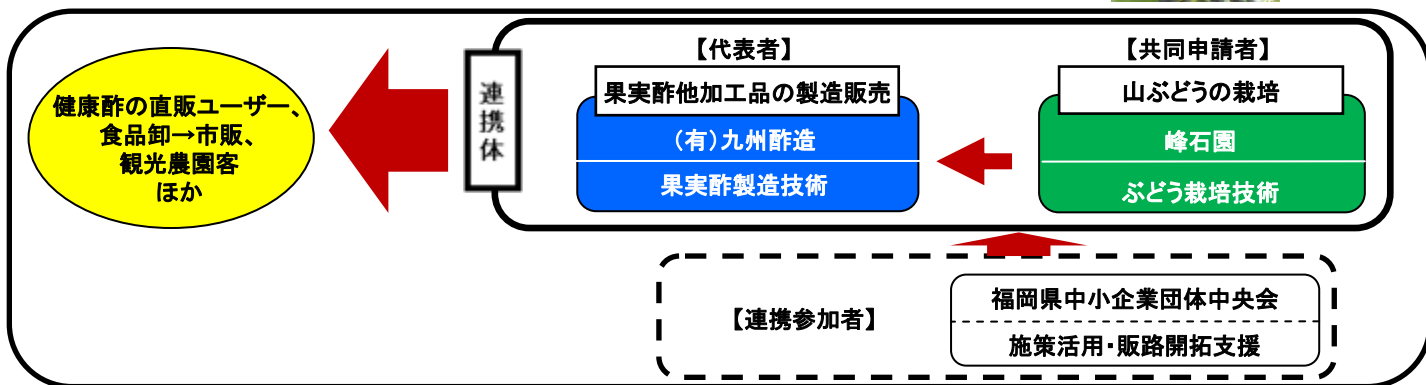
➤ 連携の経緯

峰石園は、巨峰の栽培50年の経験と実績を有するが、酸味があり、野性味溢れる味わいに魅かれて、7年前から山ぶどうの栽培にも取り組んできた。山ぶどうは病気に強く、「摘粒」や「袋がけ」作業の必要がないため、生産者の負担が少ない。そのような中で、巨峰の出荷量減少や生産者の高齢化対策を含め、「山ぶどう」の生産拡大による加工品を開発するために、「柿酢」をはじめ果実酢に経験・実績を持つ(有)九州酢造と連携するに至った。



➤ 連携に当たった課題や工夫等

峰石園は、山ぶどうの栽培において収穫高向上のため、従来の巨峰栽培における棚仕立てではなく垣根仕立ての栽培を行う。また、数種類の山ぶどうを栽培し、加工に適した品種を選定するための研究も行っている。一方、(有)九州酢造による酢の開発においては、果実そのものを発酵させ、長期熟成を行い、果実特有の風味と成分を引き出す工夫をしている。



➤ 連携による効果

農林漁業者

5年で470万円の売上高増加、ぶどう栽培の作業軽減

農地の有効活用が図られるだけでなく、作業量の軽減によって農家の生産性の改善に貢献することが期待される。

中小企業者

5年で2,300万円の売上高増加、商品のブランド化

既存技術を活用した新たな商品のブランド構築に向けた事業展開を図ることにより、売上の増加が期待される。

➤ 代表企業等の連絡先

企業等名：有限会社九州酢造

T E L : 092-938-3678

E - m a i l : kakisu@k1104.com

所在地：福岡県粕屋郡粕屋町仲原295-4

F A X : 092-939-0241

ホームページ：http://www.k1104.com